第35回 生物学会総会出席者名簿

松山確郎（丹有支部長）
樋口清一（柏原高）
田中光夫（篠山産業高）
高橋　匡（豊岡高）
守田治夫（龍野高）
上岡雅和（明石高）
沢田敏行（西脇高）
松本邦恭（西脇北高）
中尾義則（三木高）
平畑政幸（西宮今津高）
内垣内義広（川西緑台高）
田中貞之（鳴尾高）
当津　隆（夢野台高）
東　敏男（神港高）
大河　孝（西小学校）
金山韶郎（大屋高）
永井壮一郎（柏原高）
高見和光（氷上西高）
岡本高一（有馬高）
前田常雄（豊岡南高）
橋本光政（姫路東高）
大場義憲（明石北高）
小紫敬三（播磨農業高）
阿蘇達郎（加古川西高）
古河崎正昭（三木東高）
近藤浩文（西宮市立苦楽園中）
西村謙之助（宝塚東高）
冨川哲夫（北須磨高）
上中一雄（兵庫高）
川上清続（須磨東高）
小稲茂夫（篠山鳳鳴高）
小林利雄（香住高）
仲井啓郎（柏原高）
秋末宏幸（篠山鳳鳴高）
岡田清隆（柳学園高）
木村珪三（生野高）
古田　昌（神崎高）
広内督文（多可高）
小林拓郎（小野高）
渡辺猛史（加古川北高）
西本　裕（小林聖心女）
浅野一彦（尼崎小田高）
山村康彦（宝塚東高）
横山　章（神戸野田高）
渋野竜二（神戸市立教育植物園）
室井　綽（学会会長）
小森　貢（氷上町犬岡）

昭和56年度 夏期研修会報告

期　日　昭和56年8月6日・7日
場　所　氷上郡市島町多利　神池寺会館
　　妙高山神池寺の残存林一帯
日　程　第1日　8月6日（木）
　　「Curtis and McIntosh法による植生調査」
　　指導　大阪教育大学教授　農学博士
　　平井源一　先生
　　氷上中学校教諭
　　安達凱夫　先生

第1日

8月6日，午前10時，県下各地より，暑い夏の日盛りに先生方それぞれに自家用車等で参集される。昼食後，生物学会代表の当津隆先生よりの挨拶で研修会のスタートをきる。先ず，大阪教育大学の平井源一先生より，植生調査の実施方法についての詳細な説明を受ける。その後，参加者が2班に分かれ植生調査の実習に入る。調査地点は平井先生が選定され，そこに200 m^2の方形枠をロープで設定し，更に，その方形枠を25等分し，枠ごとに高木，亜高木，低木及び草本と，そこに自生する植物をすべて階層別にとらえ，樹木については，その胸高直径を測定し記録していった。こうした植生調査も，本で読んで承知していても，実際に手を下して実施するのははじめてという人もあり，時間のたつのも忘れて，林間が薄暗くなっても記録測定が続けられた。

夕食後は，調査結果をもとにして，被度，密度，頻度，更には重要度指数と夜半まで，その計算，整理が進められた。

神池寺社叢の植生調査資料についての説明

氷上中学校教諭　安達凱夫

調査するにあたって大阪教育大学平井教授が説明されましたので，そのお話しを要約して説明に変えさせていただきます。

1　Curtis & McIntosh法を用いる理由

従来，Braun-Blanquet，宮脇らを始め多くの研究者は植生を把えるに当って，その植物群落の単位の認識と分類および体系づけを中心課題として研究を進めている。しかし，私ら（平井教授ら）は，森林はそれぞれの場所，地域において，さまざまな種が，その種にふさわしい密度で混交している一つの組合わせであるとみなし，その種の組合わせ（植物共同体）が環境勾配に沿って連続的に変化するものと考える。そこで，Curtis & McIntosh（1951）の importance value を用い，これを種の優占度とし，環境勾配による優占度の量的変化をみてみるわけです。

さらに森林における種の量的な組合わせを植物共同体の性質とみなし，これをその地域における植生の特徴としてとらえます。

2　調査の方法

各社寺林の林相を代表している場所に200 m^2の方形枠を設定し，その高度，傾斜角および斜面方位を求める。次に，方形枠を25等分し，枠ごとに高木，亜高木，低木および草本層の植物を階層別にとらえ，高木，亜高木，低木層に出現した全樹木の胸囲直径を測定する。

3　優占度 (importance value)

植物群落における種の優占度 (importance value) は，各調査地点の全立木の樹幹断面積合計に対するその種の樹幹断面積合計の百分比を相対被度とし，総本数に対するその種の本数の百分比を相対密度とし，さらに，種ごとの出現枠数の合計に対するその種の出現枠数の百分比を相対頻度とし，そのおのおのを合計したものである。

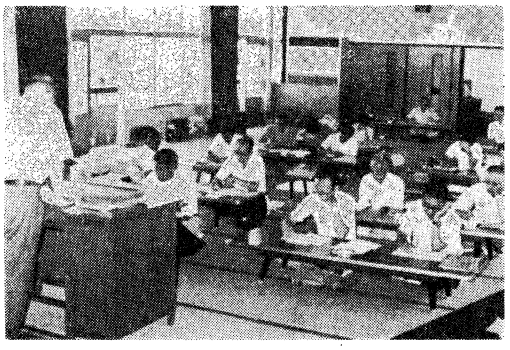
4　神池寺の社叢の植生について

氷上郡から福知山市の平地のたい積地ではシラカシ林が多いが，氷上郡では山ろくから山地ではツブラジイ林となる。しかし，今度調査した神池寺社叢のような標高300*m*～600*m*ぐらいになるとウラジロガシやアカガシ林となる。

神池寺社叢では暖帯林の標徴種であるヤブツバキ，ヒサカキ，アオキ，イヌツゲ，ヒイラギ，ネズミモチ，アセビ，シロダモ，ヤブニッケイ，サカキが生えている。

又，温帯林，暖帯林と温帯林の中間帯の植物が生えている。アカシデ，タムシバ，コハウチワカエデ，タンナサワフタギ，コシアブラ，クロモジ，タカノツメ，ウワミズザクラ，シラキ，アズマツリガネツツジ，リョウブ，ミヤマシキミ，シノブカグマ（草本），ミヤマイタチシダ（草本）である。

中間帯で優占となるモミもかなり生えている。したがって，神池寺の社叢は標高約500*m*の高さにあり，モミ，アカガシ，ウラジロガシを優占とし，温帯林要素を含む，暖帯林上部の森林とみなすことができる。



熱心に講義を受ける

第2日　8月7日（金）

講演　「丹波地方の残存林について」

講師　平井源一　先生

妙高山の植物の野外観察

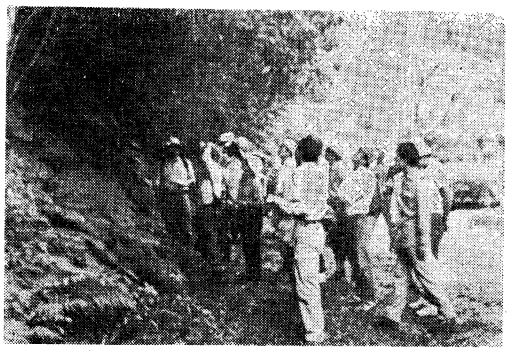
指導　植物研究家

細見末男　先生

第2日

早朝，午前7時より，平井先生の「丹波地方の残存林について」の講演がある。精力的な先生の残存林についての話に聞き入る。

ややおそい朝食後，午前10時頃より，氷上郡在住の植物研究家で近年は古文書を中心とした歴史的な分野でもその活躍が著名なの細見末男先生より，妙高山の植物について詳細な実地指導を受けた。　（仲井啓郎）



妙高山での野外観察

参加者

講師先生

平井　源一　　細見　末男　　安達　凱夫

会　員

当津　隆	赤穂　重雄	宇加谷幸子
川上　清続	石上　禎二	杉田　隆三
内藤　茂樹	平畑　政幸	松本　邦恭
松本　良平	松山　確郎	森脇千代蔵
渋野　竜二	秋末　宏幸	永井壮一郎
田中　光夫	真野　育三	岩谷　成彦
冨川　哲夫	藤尾　妙子	盛谷　浩
高見　和光	広内　督文	甘中　照雄
仲井　啓郎		

第36回　生物学会総会ご案内

と　き　昭和57年5月

ところ　神戸支部

上記の予定になっておりますので，研究発表等ご希望の方は，あらかじめご準備おきください。